

令和3年度

時間外電話相談
「育児もしもしキャッチ」
—相談情報分析結果報告—

あいち小児保健医療総合センター

あいち小児保健医療総合センター保健センターでは、平成 13 年 11 月のオープン時より、県民の育児不安を軽減し、健やかな子育てを支援することを目的に、時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」（以下、「育児もしもしキャッチ」）を開設している。

開設当初の体制は、月曜日から金曜日まで開設していたが、当センターの外来診療日の変更に伴い、平成 15 年 5 月より火曜日から土曜日に相談日を開設しており、電話相談員の体制も 1 日当たり 3 人として実施してきた。しかし、令和 3 年度は新型コロナウィルス感染症対策のため、令和 2 年度に引き続き週 3 日 2 人体制を継続した。

「育児もしもしキャッチ」

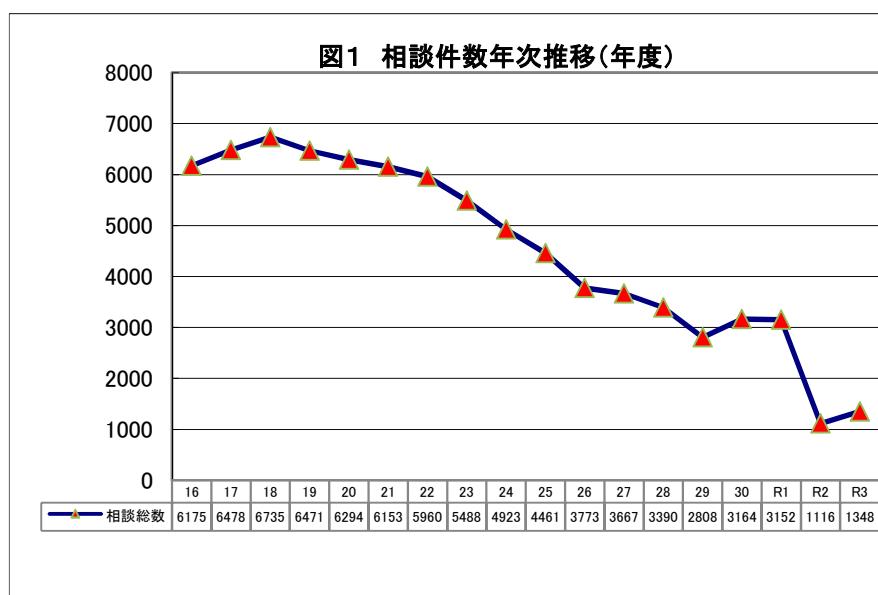
主な相談内容	母子健康手帳を活用する年齢層の母等を対象に、健康や育児について
開設日時	火曜日から土曜日 午後 5 時から午後 9 時まで（4 時間） 令和 2 年 9 月中旬より水曜日から金曜日 午後 5 時から午後 9 時まで（4 時間）
相談担当者	保健師、助産師、看護師等の専門相談員が、毎回 3 人で応対 ※令和 2 年 9 月中旬より毎回 2 人で応対。令和 3 年度も継続。
相談体制	当センターの保健師 1 名が相談終了まで勤務する体制をとり、困難な相談への助言、連携の必要なケースを地域に繋ぐ役割等、相談員をバックアップしている。
相談記録の記載方法	相談は原則匿名としているが、相談終了時に相談者の居住地域、相談経路を聞いている。電話相談員が相談記録を記載し、予め設定されている「相談内容分類コード」に従い内容の分類を行っている。
相談の周知方法	各市町村にて乳幼児健診や育児相談、家庭訪問等の際に案内カードを母等へ配布するほか、当センターのホームページに案内を掲載している。

【令和 3 年度の事業内容】

令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日までに寄せられた相談情報を保健部門のシステムに入力し、地域別利用数や相談者、相談時間、相談内容等に注目して分析した。

1 相談総数・総着信数について

期間中の相談総数は 1,348 件であった。令和 3 年度の相談件数は、令和 2 年度と比較するとわずかに増加が見られる。しかし、経年で見てみると、開設後の平成 14 年度（平成 13 年 11 月から平成 15 年 3 月、以下平成 14 年度と表記）以降の相談件数は、平成 18 年度まで増加し、その後は平準状態となり近年は減少の傾向にあった。そして令和 2 年度からは新型コロナウィルス感染症の影響のためか減少が加速した。（図 1）



令和3年度の月別相談件数は令和2年度と比較するとわずかに増加が見られる（令和2年度4月下旬から6月まではコロナウィルス感染症のため休止）。令和3年度は、8月に相談件数が大きく減少しており、令和2年度と比較しても60件以上の減少が見られる。

しかし、他の月は令和2年度と相談件数に大きな差は見られない。

1日当たりの平均件数は9.2件で昨年度より約3件の増加が見られ、相談件数と同様に微増傾向にある（図2）。

2 地域・経路について

（1）利用者の居住地について

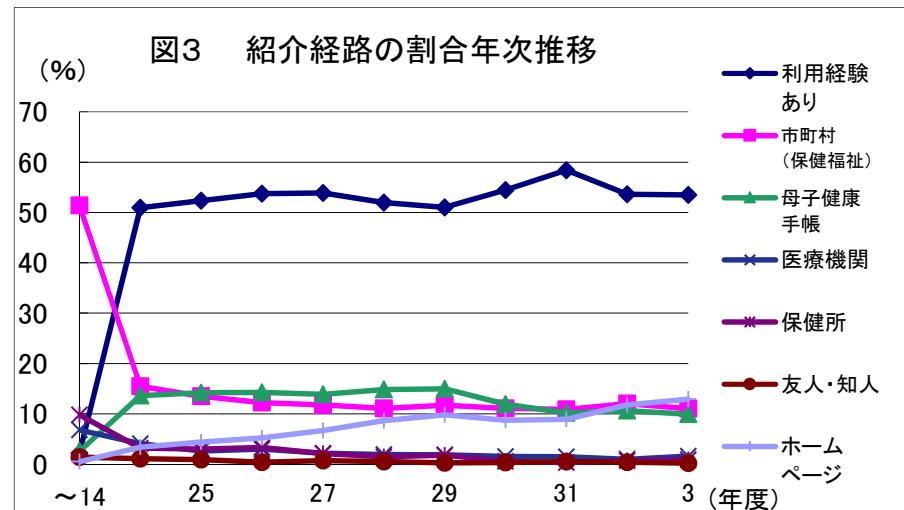
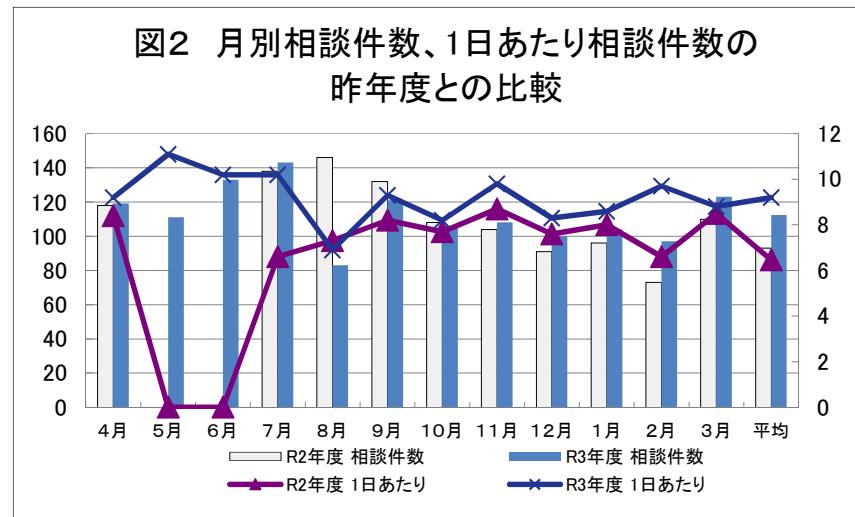
相談者の居住地が把握できた1,208件を分析した。相談は県下ほぼ全域から寄せられており、市町村別では、名古屋市（365件）、蟹江町（77件）、刈谷市（70件）、一宮市（46件）、岡崎市（45件）の順に多かった。令和2年度と比較すると上位を占める市の多くが令和3年度にも上位に見られていることがわかる。

相談件数の出生1,000に対する割合をみると、最も高いのは蟹江町の246.8（昨年度201.3）で年々増加している。2番目は清須市の55.6（昨年度29.5）、3番目は刈谷市の51.2（昨年度32.5）であった。蟹江町の割合が突出しているのは、出生数が少ないのでに対して、相談件数が多かったためである。県外からの相談は17件であった（資料：表1）。

（2）経路について

「利用経験あり」が721件（53.5%）で最も多い。初回相談者が相談電話の情報を入手した方法は、市町村（保健福祉）からが148件（11.0%）、母子健康手帳交付時にもらった「案内カード」によるものが133件（9.9%）など、保健機関からの情報によるものが初回相談者の

約半数を占めている。インターネット、スマートフォンの普及によりホームページからの情報が173件（12.8%）で、その割合は平成24年度より漸次増加している。また、県外からの相談17件のうち、利用経験ありは11件（64.7%）でホームページからの情報は4件（23.5%）見られた。利用経験ありは増加したまま高止まりしている（図3、資料：表2）。



3 相談者・相談対象者について

相談記録では、相談者（電話をかけてきた人）の続柄を相談対象者との関係から本人、母、父、配偶者、祖父母等、兄弟、専門職等、その他と分類しているが、母からの相談が 1,174 件（87.1%）と最も多かった（資料：表 3）。

相談対象者は「子ども」が 1,217 件（90.3%）であり、「本人」（母自身のことに関する相談など）は 114 件（8.5%）であった。「本人」の割合は令和元年度、2 年度の約 5% と比較するとわずかに増加が見られた。（資料：表 4）。

相談対象者の年齢では、0 歳が 396 件（29.3%）と最も多く、次いで、1 歳が 162 件（12.0%）、3 歳が 127 件（9.4%）、7 歳が 78 件（5.8%）で、8 歳以降の対象者に関する件数は、年齢の上昇に伴い概ね減少していたが、令和 3 年度には 20 歳以上に増加が見られた。また、年齢不明の者が 101 名いた（図 4）。

0 歳児の内訳を見ると、0 か月、2 か月をピークにその後は減少している。経年的にほぼ同様の傾向であった（図 5）。

図4 相談対象者の年齢別件数

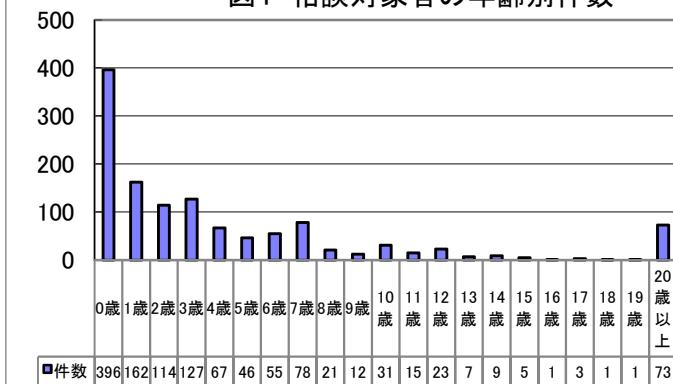
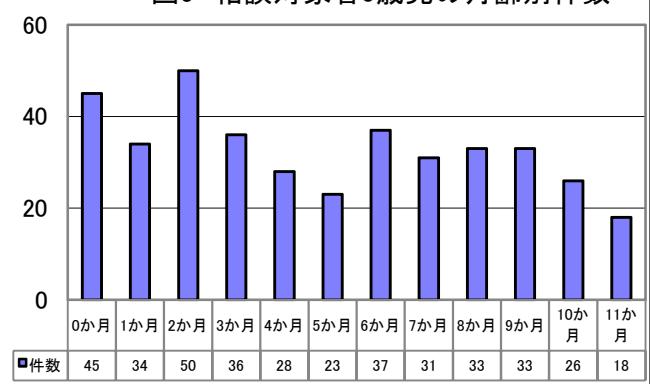


図5 相談対象者0歳児の月齢別件数



4 相談の時間帯・所要時間・曜日について

（1）時間帯・所要時間について

相談の時間帯は 17 時台が 406 件（30.1%）と最も多く、次いで 18 時台が 377 件（28.0%）、19 時台が 293 件（21.7%）、20 時台が 272 件（20.2%）となっている。令和 3 年度は 17 時が多かったがおおよそどの時間帯にも平均的に相談がされていることがわかる。

相談の所要時間は、5～14 分が 670 件（49.7%）と最も多く、次いで 15～29 分が 286 件（21.2%）であった（資料：表 5）。

相談内容により、所要時間は異なり、子どもの病気・手当や事故相談では平均して時間が短く、育児不安を含む家族・人間関係や教育、発育・発達の相談等では、所要時間が長くなっている。

（2）曜日について

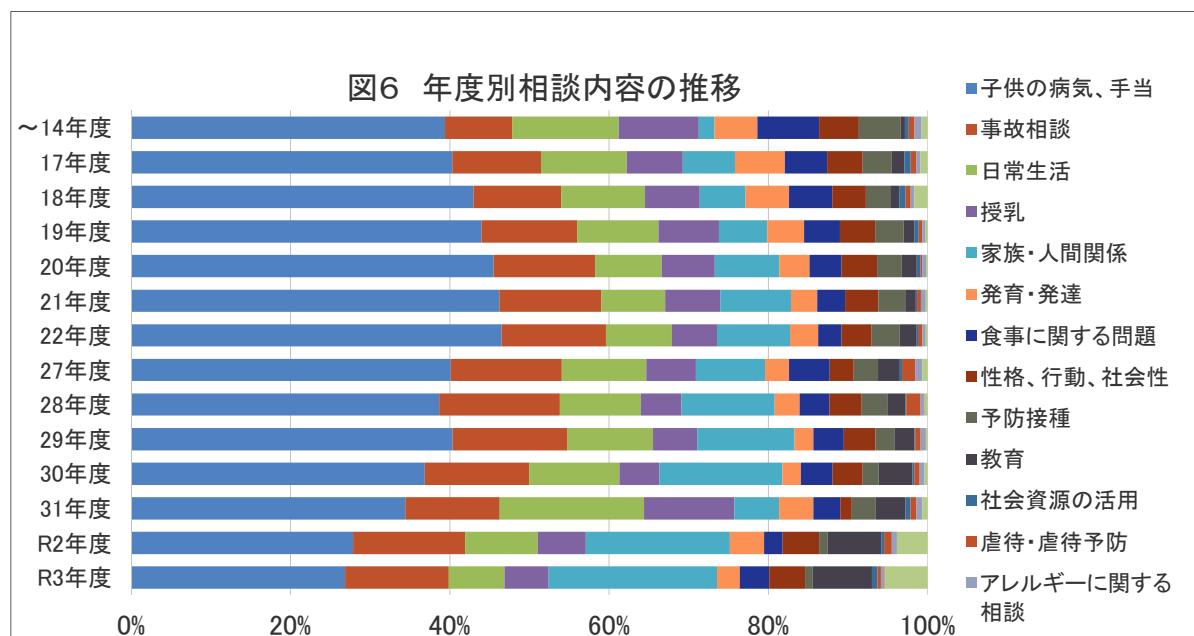
令和 3 年度は令和 2 年度に引き続き新型コロナウィルス感染症への配慮により水曜日から金曜日までの対応となった。令和 3 年度は曜日による 1 日当たりの相談件数には偏りがほぼ見られず、令和 2 年度の 1 日あたり約 6～7 件であったのに対し、令和 3 年度は 8～9 件と少し増加が見られた。

5 相談内容について

(1) 相談内容について

相談員が相談記録作成時に分類した相談内容では、「育児相談」が 1,280 件 (95.0%) と大半を占め、次いで「家族の心と体の相談」19 件 (1.4%)、「思春期相談」16 件 (1.2%)、「母性相談」14 件 (1.0%)、の順であった。令和 2 年度と比較すると、「家族の心と体の相談」が大きく増加し、「母性相談」「思春期相談」が少し減少した（資料：表 7）。

「育児相談」1,280 件の内訳は「子どもの病気、手当」が 362 件 (28.3%) と最も多く、次いで「家族・人間関係」の 285 件 (22.3%)、「事故相談」176 件 (13.8%)、「教育」100 件 (7.8%) の順で多かった。相談内容の推移から「子どもの病気・手当」「事故相談」「予防接種」といった子どもの病気や体調に関する相談の割合が 24 年度まで年々増加し、合計で 68.6% となっていたが、24 年度に 365 日体制、27 年 1 月に夜間実施時間が延長した『小児救急電話相談（#8000）』が住民へ浸透したためか、令和 3 年度は 43.0% と減少し続けている。（図 6）。



(2) 育児相談の内容について

本年度の育児相談 1,280 件の主な内容について資料：表 9 に示した。

1) 「子どもの病気、手当」362 件 (28.3%)

目の前の子どもの症状、病状への対応についてのアドバイス、受診の要否についての相談が多く、熱や鼻汁等のかぜ症状、下痢、嘔吐等の消化器症状、発疹等の皮膚症状、インフルエンザ等の感染症の順に多かった。また、処方された薬の飲ませ方や使い方等の薬に関する相談 8 件も含まれている。相談件数全体に占める割合は開設当初 40% を超えていたが、令和 3 年度は約 28.3% と大きく減少している。

<相談例>

- 6か月児。父が育児をしていたら、2回ほど酷く泣いた。以前、ワクチン接種時に、大泣きしたら腸重積の可能性ありと言われ心配になった。
- 1歳児。31秒程度熱性けいれん起こした。直ぐに受診したほうが良いのか。コロナの感染が怖いので迷う。

- ・ 4歳女児。左足の付け根が時々腫らんだり戻ったりするのが気になる。
- ・ 9か月児。豆腐を食べてから2時間後に発疹あり。初めはぼつぼつ程度であったが、身体のあちこちに蕁麻疹。呼吸に異常ないがミルク飲みたがらない。受診したい。

受診するべきかを問う相談や、どう行動すべきか意思決定をするための相談が多く、「かかりつけ医を受診し、内服薬や坐薬をもらってあるが不安。」といった電話も少なくない。保護者が現状をどう捉えているかをよく聴き、今できていることを認めることも重要である。家庭看護力の低下が指摘されている中、発熱の生理的意味から、“様子をみる”とはどういうことか、受診に切り替えるタイミングまでを十分に説明する等、保護者をエンパワメントできる相談となるよう心掛けている。

2) 「家族・人間関係」 285 件 (22.3%)

昨年度に比べ、全体に占める割合が増加している。「育児不安」が 169 件 (59.3%) で最も多く、次いで「家族内の人間関係」 82 件 (28.8%)、「近所との付き合い方」 11 件 (3.9%) であった。

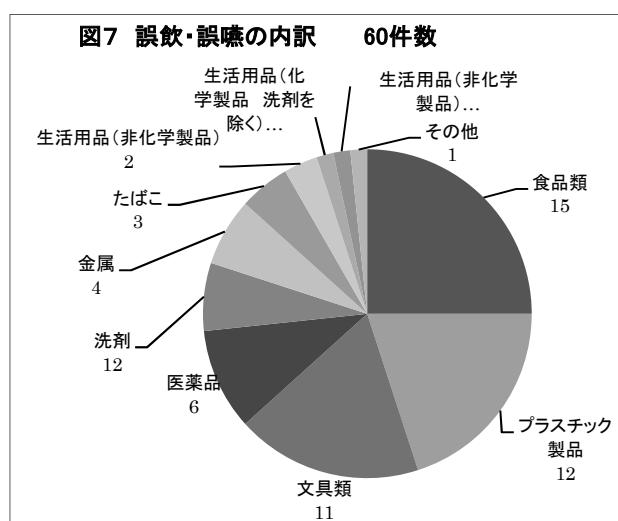
「育児不安」では、2歳男女双子の母から、「いやいや期で言うことを聞かず手が出てしまう時もある。成長は順調で実母の支援あるが子供らの食事作りが面倒でどうにも嫌になる。」、また、7か月児の母からは、「県外からの転入のため友達もおらず両方の親に頼ることもできない。子供と2人の時間が長く煮詰まる。1歳から保育園に預けてパートで働く予定。夫も理解あるが、他の人から「子どもがかわいそうと思われないか心配」等、育児に悩む声が多く聞かれる。「家族内の人間関係」では、「自分は頑張っているが夫が育児に非協力的で疲れた」が最も多い。義父母との関係や祖父母から児の面倒を見ることについての相談があつたり、コロナウィルス感染症による体調不良から関係悪化があるとの相談も数件見られた。しかし、とにかく「話を聞いて欲しい」との訴えがあり、繰り返し相談する母も見られる。「近所との付き合い」では、ママ友、同級生の両親等、子どもを介して拡がる社会に対するストレスの相談が多かった。

これら「家族・人間関係」の相談では、251 件 (88.1%) が「利用経験あり」であり、昨年度より 100 件近く増加しており繰り返し相談する利用者が多いことがわかる。また、相談の開設当初、相談内容の約 5%弱の割合であったのに対し、令和3年度では 22.3%まで増加しており年々増えており、このことからこれらの悩みを抱える保護者の相談の受け皿となっていることがうかがえた。

3) 「事故相談」 176 件 (13.8%)

「誤飲・誤嚥」が 53 件 (30.1%) と最も多く、次いで「転落」が 38 件 (21.6%)、「衝突」「転倒」と続く (表 9)。また、事故相談全体で 1 歳以下の子どもについての相談が 111 件 (63.1%) と高い割合を占めていた。
<誤飲・誤嚥>

誤飲・誤嚥も内容により、緊急性が異なる。その内容を図 7 に示す。「食品」15 件中、魚の骨、果物が各々 3 件 (20.0%) (果物を喉に詰まらせる)と最も多く、肉が 2 件 (13.3%)、



酒類、イモ類、きのこ類、サプリが各々1件(6.7%)であった。

- ・「プラスチック製品」12件中、おもちゃが5件(41.7%)、包装(ペットボトルのラベルやラップ等)各2件(16.7%)、その他、破片等があった。
- ・「文具類」11件中、紙類、ビニール類が各3件(27.3%)ずつで、その他、シールがあった。
- ・「医薬品」6件中、年齢別では1歳児・3歳児が各々2件、2歳、5歳が各々1件ずつであり、1歳未満の相談はなかった。「市販の鎮痛薬を飲んでしまった」「本人に処方された薬を規定の回数より多く飲ませてしまった」が各々2件(33.3%)、「大人用の薬を飲んでしまった」「気が付いたら本人に処方された薬を15回分飲んでしまったよう」が各々1件(16.7%)あった。

<転落・転倒>

- ・「転落」38件中、ベット等の家具やソファ等を含めた椅子からが各々11件(28.9%)、階段が6件(15.8%)であった。「ベビーカーの前方に母の体重が載ってしまいベビーカーがひっくり返り転落した」ケースや、「母の抱っこから手が滑り転落」があった。
- ・「転倒」25件中、居室での転倒が16件(64.0%)と最も多く、次いで道路3件(12.0%)、玄関2件(8.0%)、風呂・洗面所が1件(4.0%)と続いた。居室では、つかまり立ちや歩き始めでバランスを崩し、床や机に額や顔面、頭をぶつけたケースや、お座りで前や後ろに倒れて額や後頭部を打撲したケース、兄弟喧嘩で転倒、柱の角で側頭部を打撲したケースがあった。

<熱傷>

- ・熱傷11件。熱いミルクやスープ等による熱傷が5件(45.5%)、アイロンや鉄板等に触れての熱傷が3件あり、中には皮膚科に電話して相談するように勧めたケースもある。

事故相談では、保護者の事故に対する焦りや自責の気持ちに寄り添い、状況を的確に捉えて、冷静な対応を促す。乳幼児の事故相談は、環境整備により防ぐことが可能なものが大半である。起こったことを客観的に振り返ることが次の事故の予防となることを啓発する必要性を感じる。

4) 「日常生活」は94件(7.3%)

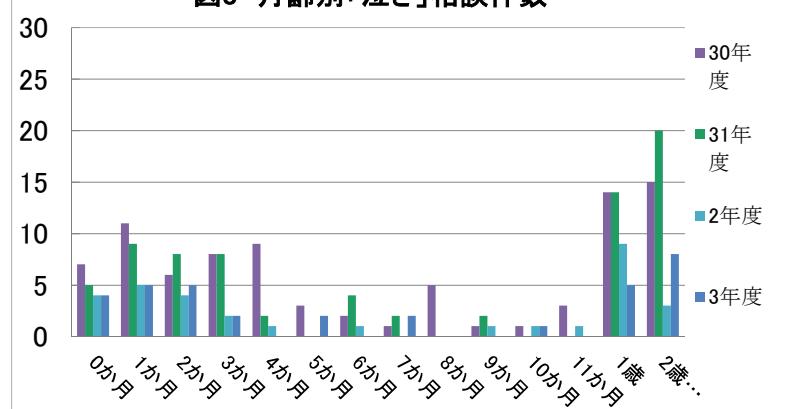
「泣き」の相談が34件(36.2%)と最も多く、0歳児の相談が21件(61.8%)で、そのうち0~6か月の相談が18件(85.7%)と多く認められた(図8)。

『乳幼児揺さぶられ症候群』の予防のためにも、生後6週間くらいから見られる夕暮れ泣き(『PURPLE CRYING』)への対応策を早い段階から啓発する必要性が示唆される。

<相談例>

- ・3歳児。トイレットトレーニングを開始しているが、上手くいっていない。他の子供は入園前に完了しそうで焦る。
- ・1歳9か月児。特に問題なさそうだが1時間ほど泣き続けている。どうした良いか。
- ・小3と3歳園児。子供に対して冷静に対処しているが、父がもっと命令的な言方にしなくてはと言うが釈然としない。

図8 月齢別「泣き」相談件数



以下、「睡眠」「トイレットトレーニング」に関する相談がそれぞれ 14 件 (14.9%)、「しつけ」が 6 件 (6.4%) と続く。

5) 「授乳」 69 件 (5.4%)

「授乳方法」に関する相談は 32 件 (46.4%) 認められ、授乳回数、間隔、量、眠りとの関連等の相談が主であった。

<相談例>

- ・ 2 週間児。最近直母だと飲んでくれない。搾乳して哺乳瓶なら飲んでくれる。どうしたよいか。
- ・ 3 か月児。ロキソニンを飲んだら授乳はダメか。病院で大丈夫と言わされたがどのタイミングで飲ませればよいのか。

次いで、「吐乳、溢乳」 12 件 (17.4%)、「乳汁を飲まない」 10 件 (14.5%)、「授乳と薬」が 6 件 (8.7%) と続く。「授乳と薬」では、体調が悪い辛さに加え、授乳に悩む辛さに寄り添い、根拠に基づいた適切な助言ができるよう努めている。

6) 「性格、行動、社会性」 61 件 (4.8%)

「言うことを聞かない」が 31 件 (50.8%) で約 5 割を占め、次いで「習癖」が 5 件 (8.2%)、「いじめる、いじめられる」が 4 件 (6.6%)、であった。

<相談例>

- ・ 2 歳 8 か月児。落ち着きがなく疲れる。保健所からも様子を見たらと言わわれているが、父は発達障害であることが受け入れられず非協力的。
- ・ 3 歳 8 か月児。母と 1 歳の弟に暴力が酷くて困っている。保育園では問題ない。どうしたよいか。
- ・ 小 6。同級生にいじめられている様子だが、あまり話してくれない。母がマンション内で嫌われていると思うが関係あるのか？

7) その他

「予防接種」は 13 件 (1.0%) であり令和 2 年度とはあまり数は変わっていない。「副反応」の相談では、ロタウィルス、DT、日本脳炎等後の一過性の発熱や発疹、嘔吐等の相談や BCG 接種後の発赤腫脹についての相談があった。

「虐待・虐待予防」は 6 件 (0.5%) であり、令和 2 年度 9 件 (0.8%) と比較すると、件数ともに全体に占める割合も減少している。また、相談件数 6 件の内、4 件が 3 歳児の相談となっている。

<相談例>

- ・ 3 歳児。子どもを叩くことが止められずトイレに籠るようにしている。子どもの発達が遅れており家にいると散らかし放題となるため、半日療育へ行かせている。上の子も療育へ行っているが、父からは育て方が悪いと怒られ辛い。
- ・ 3 歳と 0 歳児。保育士からネグレクトと疑われて市役所に報告されたり、3 歳児を車に放り投げたと言われる。仕事は楽しいし育児ストレスもなく、子どもも園が楽しいのに、園への送迎が辛い。

原則、匿名相談ではあるが、気になるケースについては、相談対象が明確でなくともできる限りの情報を用いて地域連携を行っている。

6 相談結果について

電話相談は原則匿名で1回の相談での終了が前提となっているため、利用経験がある場合も継続支援とはしておらず、1回で終了としている。

7 まとめ

相談件数は平成18年度以降減少傾向にある。特に令和2年度からは新型コロナウイルス感染症対策のための休止や縮小により激減している。令和3年度は令和2年度と比較すると総件数、1日当たりの件数も増加が見られたが、経年推移での減少傾向に大きな変化は見られない。令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスによる影響、例えば夫の在宅勤務や宴会等の自粛により早く帰宅するようになったことで夫に相談できるようになったことや逆に電話での相談がしづらくなつたことも一因と思われる。

また、総務省の調査では、住宅用固定電話の加入数は平成17年以降減少している。携帯電話・スマートフォンの普及から、インターネットによる相談にもアクセスが簡便になったことや通話費用負担が大きくなりがちな電話相談の利用が敬遠される状況であることが推測される。

平成24年度以降、『小児救急電話相談（#8000）』の住民への浸透に伴い「子どもの病気・手当」「事故相談」が大きく減少しており、本年度は令和2年度より約50件の増加がみられたが、平成31年度と比べると、3分の1に減少している。一方で、「家族・人間関係」についての相談割合は年々大きくなつており、令和2年度より3.4%増加している。「家族・人間関係」の悩みについて身近に相談できる人がいないう状況にある相談者が増えている状況が懸念される。相談記録からは「誰かに話を聞いて欲しい」との訴えも多く、『育児もしもしキャッチ』は育児や人間関係で困っている親の不安や心配、うまくいかない苛立ちを受け止める窓口としての大きな役割を担っている。

本事業は平成13年11月のセンター開設と同時に開始され、関係機関からも高い認知度と期待を受けて運営されてきた。社会の育児問題が反映されており、ニーズ把握に役立てることができる貴重な機会でもある。県内の小児保健の中核的支援機能を有する当センターの保健事業のひとつとして、今後も継続する必然性はあるが、今後の相談件数の傾向も見ながら相談を求める人とつながれるよう、相談の周知方法や受信方法についても検討をしていくことが必要である。

表1 市町村別の利用状況 R3

	市町村	件数	出生 1,000対	R3 出生数		市町村	件数	出生 1,000対	R3 出生数
1	名古屋市	365	21.3	17,120	30	江南市	8	13.5	592
2	蟹江町	77	246.8	312	31	愛西市	7	22.7	309
3	刈谷市	70	51.2	1,368	32	蒲郡市	7	15.1	464
4	一宮市	46	18.2	2,524	33	常滑市	6	15.3	392
5	岡崎市	45	15.6	2,885	34	扶桑町	6	21.8	275
6	豊川市	39	29.7	1,311	35	武豊町	6	18.8	319
7	安城市	38	26.1	1,456	36	大治町	5	17.5	286
8	清須市	38	55.6	683	37	岩倉市	5	13.3	376
9	豊橋市	35	14.5	2,409	38	東浦町	5	15.5	322
10	豊田市	29	10.1	2,863	39	碧南市	5	10.6	471
11	春日井市	28	12.1	2,319	40	高浜市	4	11.2	358
12	大府市	25	30.9	809	41	阿久比町	4	22.2	180
13	稻沢市	24	27.2	881	42	津島市	4	14.2	282
14	東海市	20	22.7	881	43	弥富市	4	13.0	308.0
15	西尾市	19	16.9	1,121	44	新城市	3	16.2	185
16	日進市	19	22.3	851	45	幸田町	2	5.4	373
17	長久手市	17	32.3	526	46	豊山町	2	17.4	115
18	知立市	15	23.0	652	47	美浜町	2	21.5	93
19	尾張旭市	14	23.5	597	48	大口町	1	5.1	198
20	小牧市	13	14.5	898	49	南知多町	1	21.3	47
21	田原市	13	40.9	318	50	東郷町	0	0.0	289
22	半田市	13	17.1	759	51	飛島村	0	0.0	32
23	あま市	12	17.6	681	52	設楽町	0	0.0	20
24	瀬戸市	12	16.9	710	53	東栄町	0	0.0	10
25	みよし市	11	22.3	493	54	豊根村	0	0.0	2
26	知多市	11	20.8	530		県内不明	25		
27	北名古屋市	11	15.6	705		愛知県下 (含名古屋市)	1,191	19.5	61,230
28	犬山市	10	26.2	382		他県	17		
29	豊明市	10	20.7	483		不明	140		
						合計	1,348		

表2 年度別経路

経路	利用経験あり	市町村(保健福祉)	母子健康手帳	医療機関	保健所	友人・知人	ホームページ	子育て支援センター	院内	幼稚園・保育園等	学校	児童相談センター	その他	不明	計
24年度	2,509	762	671	201	158	53	167	32	31	2	1	0	31	305	4,923
	(51.0)	(15.5)	(13.6)	(4.1)	(3.2)	(1.1)	(3.4)	(0.7)	(0.6)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.6)	(6.2)	(100.0)
25年度	2,335	602	632	117	134	41	196	24	28	9	3	2	26	312	4,461
	(52.3)	(13.5)	(14.2)	(2.6)	(3.0)	(0.9)	(4.4)	(0.5)	(0.6)	(0.2)	(0.1)	(0.0)	(0.6)	(7.0)	(100.0)
26年度	2,027	460	537	113	126	14	197	17	22	2	2	0	31	225	3,773
	(53.7)	(12.2)	(14.2)	(3.0)	(3.3)	(0.4)	(5.2)	(0.5)	(0.6)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.8)	(6.0)	(100.0)
27年度	1,975	431	509	80	77	27	244	14	9	4	0	0	22	275	3,667
	(53.9)	(11.8)	(13.9)	(2.2)	(2.1)	(0.7)	(6.7)	(0.4)	(0.2)	(0.1)	(0.0)	(0.0)	(0.6)	(7.5)	(100.0)
28年度	1,761	376	503	65	50	17	293	14	6	2	3	1	18	281	3,390
	(51.9)	(11.1)	(14.8)	(1.9)	(1.5)	(0.5)	(8.6)	(0.4)	(0.2)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.5)	(8.3)	(100.0)
29年度	1,433	329	420	52	51	8	275	9	7	0	0	1	3	220	2,808
	(51.0)	(11.7)	(15.0)	(1.9)	(1.8)	(0.3)	(9.8)	(0.3)	(0.2)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.1)	(7.8)	(100.0)
30年度	1,722	351	376	49	18	11	275	4	7	2	1	0	9	339	3,164
	(54.4)	(11.1)	(11.9)	(1.5)	(0.6)	(0.3)	(8.7)	(0.1)	(0.2)	(0.1)	(0.0)	(0.0)	(0.3)	(10.7)	(100.0)
31年度	1,849	344	323	47	9	16	282	7	2	2	1	2	8	260	3,152
	(58.7)	(10.9)	(10.2)	(1.5)	(0.3)	(0.5)	(8.9)	(0.2)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.1)	(0.3)	(8.2)	(100.0)
R2年度	598	133	118	11	8	5	132	1	1	1	1	(0.0)	7	100	1,116
	(53.6)	(11.9)	(10.6)	(1.0)	(0.7)	(0.4)	(11.8)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.6)	(9.0)	(100.0)
R3年度	721	148	133	22	12	3	173	4	2	0	1	(0.0)	13	116	1,348
	(53.5)	(11.0)	(9.9)	(1.6)	(0.9)	(0.2)	(12.8)	(0.3)	(0.1)	(0.0)	(0.1)	(0.0)	(1.0)	(8.6)	(100.0)

表3 相談者の続柄

続柄	件数	割合
母	1,174	87.1%
本人	115	8.5%
父	41	3.0%
配偶者	2	0.1%
祖父母等	12	0.9%
きょうだい	0	0.0%
専門家等	0	0.0%
その他	3	0.2%
不明	1	0.1%
合計	1,348	100.0%

表4 相談対象者

	件数	割合
子ども	1,217	90.3%
本人	114	8.5%
孫・甥・姪等	11	0.8%
配偶者	2	0.1%
きょうだい	0	0.0%
患者等	0	0.0%
その他	3	0.2%
不明	1	0.1%
総計	1,348	100.0%

表5 時間帯と所要時間 R3度

所要時間	17時台	18時台	19時台	20時台	不明	合計
5分未満	38	59	52	33	0	182
	9.4%	15.6%	17.7%	12.1%	0.0%	13.5%
5~14分	173	199	131	167	0	670
	42.6%	52.8%	44.7%	61.4%	0.0%	49.7%
15~29分	109	65	63	49	0	286
	26.8%	17.2%	21.5%	18.0%	0.0%	21.2%
30~44分	60	36	35	23	0	154
	14.8%	9.5%	11.9%	8.5%	0.0%	11.4%
45~59分	20	15	10	0	0	45
	4.9%	4.0%	3.4%	0.0%	0.0%	3.3%
60分以上	6	3	2	0	0	11
	1.5%	0.8%	0.7%	0.0%	0.0%	0.8%
全体	406	377	293	272	0	1,348
	30.1%	28.0%	21.7%	20.2%	0.0%	100.0%

表6 曜日別状況

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	全体
H23年度 (1日平均件数)	1,055 (23.4) 19.2%	1,165 (22.8) 21.2%	1,149 (23.4) 20.9%	1,056 (21.6) 19.2%	1,063 (20.8) 19.4%	5,488 (22.4) 100.0%
H24年度 (1日平均件数)	946 (19.7) 19.2%	1,033 (20.7) 21.0%	1,107 (22.1) 22.5%	871 (17.4) 17.7%	966 (18.9) 19.6%	4,923 (19.8) 100.0%
H25年度 (1日平均件数)	791 (19.3) 17.7%	966 (18.9) 21.7%	968 (19.0) 21.7%	842 (17.2) 18.9%	894 (17.2) 20.0%	4,461 (18.3) 100.0%
H26年度 (1日平均件数)	642 (15.3) 17.0%	784 (16.0) 20.8%	868 (17.0) 23.0%	704 (13.8) 18.7%	775 (15.2) 20.5%	3,773 (15.5) 100.0%
H27年度 (1日平均件数)	644 (15.0) 17.6%	750 (15.6) 20.5%	787 (16.1) 21.5%	691 (13.5) 18.8%	795 (15.6) 21.7%	3,667 (15.2) 100.0%
H28年度 (1日平均件数)	637 (14.8) 18.8%	736 (15.3) 21.7%	718 (14.7) 21.2%	647 (12.7) 19.1%	652 (12.8) 19.2%	3,390 (14.0) 100.0%
H29年度 (1日平均件数)		736 (15.0) 26.2%	774 (15.2) 27.6%	615 (12.1) 21.9%	683 (13.4) 24.3%	2,808 (11.6) 100.0%
H30年度 (1日平均件数)	512 (10.4) 16.2%	722 (14.7) 22.8%	717 (14.1) 22.7%	600 (11.8) 19.0%	613 (12.0) 19.4%	3,164 (13.1) 100.0%
H31年度 (1日平均件数)	513 (12.8) 16.3%	661 (13.2) 21.0%	741 (14.8) 23.5%	616 (12.6) 19.5%	621 (12.2) 19.7%	3,152 (13.1) 100.0%
R2年度 (1日平均件数)	76 (3.8) 6.8%	351 (7.3) 31.5%	305 (6.5) 27.3%	278 (5.8) 24.9%	106 (4.6) 9.5%	1116 (5.6) 100.0%
R3年度 (1日平均件数)		467 (9.7) 34.6%	467 (9.5) 34.6%	414 (8.3) 30.7%		1348 (9.17) 100.0%

表7 相談分類

	件数	
育児相談	1280	95.0%
家族の心と体の相談	19	1.4%
思春期相談	16	1.2%
母性相談	14	1.0%
その他	19	1.4%
合計	1348	100.0%

表8 育児相談の曜日別状況

内容	全体	内訳		
		水曜日	木曜日	金曜日
子供の病気、手当	362 28.3%	133 29.8%	129 32.8%	100 25.4%
家族・人間関係	285 22.3%	95 21.3%	92 23.4%	98 24.9%
事故相談	176 13.8%	59 13.2%	64 16.3%	53 13.5%
日常生活	94 7.3%	35 7.8%	29 7.4%	30 7.6%
授乳	69 5.4%	18 4.0%	26 6.6%	25 6.4%
性格、行動、社会性	61 4.8%	18 4.0%	25 6.4%	18 4.6%
教育	100 7.8%	33 7.4%	39 9.9%	28 7.1%
食事に関する問題	50 3.9%	16 3.6%	16 4.1%	18 4.6%
発育・発達	38 3.0%	20 4.5%	9 2.3%	9 2.3%
予防接種	13 1.0%	2 0.4%	4 1.0%	7 1.8%
アレルギーに関する問題	6 0.5%	2 0.4%	3 0.8%	1 0.3%
社会資源の活用	9 0.7%	4 0.9%	3 0.8%	2 0.5%
虐待・虐待予防	6 0.5%	2 0.4%	2 0.5%	2 0.5%
SIDS相談	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%
その他	10 0.8%	4 0.9%	5 1.3%	2 0.5%
計	1,280 100.0%	442 99.1%	446 113.5%	393 100.0%

表9 育児相談(1,280件)の主な内容

主な内容	①	件数		②	件数		③	件数	
	子供の病気、手当	362	(28.3%)	家族・人間関係	285	(22.3%)	事故相談	176	(13.8%)
主な内容	かぜの症状	114	31.5%	育児不安	169	59.3%	誤飲・誤嚥	53	30.1%
	消化器症状	100	27.6%	家庭内の人間関係	82	28.8%	転落	38	21.6%
	皮膚症状	55	15.2%	近所との付き合い方	11	3.9%	衝突	29	16.5%
	感染症	8	2.2%	職場関係	3	1.1%	転倒	25	14.2%
	薬に関する相談	8	2.2%				熱傷	11	6.3%
主な内容	④	件数		⑤	件数		⑥	件数	
	教育	100	(7.8%)	日常生活	94	(7.3%)	授乳	69	(5.4%)
	小学校	71	71.0%	泣き	34	36.2%	授乳方法	32	46.4%
	幼稚園、保育園	13	13.0%	睡眠	14	14.9%	吐乳、溢乳	12	17.4%
	中学校	7	7.0%	しつけ	6	6.4%	乳汁を飲まない	10	14.5%
主な内容				トイレットトレーニング	14	14.9%	授乳と薬	6	8.7%
	⑦	件数		⑧	件数		⑨	件数	
	性格、行動、社会性	61	(4.8%)	食事に関する問題	50	(3.9%)	発育・発達	38	(3.0%)
	言うことを聞かない	31	50.8%	離乳食・幼児食	23	46.0%	精神発達	11	28.9%
主な内容	落ち着きがない	3	4.9%	飲まない、食べない	14	28.0%	発育の評価	9	23.7%
	習癖	5	8.2%	食事のしつけ	6	12.0%	言語発達	10	26.3%
	いじめる、いじめられる	4	6.6%	離乳準備	2	4.0%	運動発達	0	0.0%
	赤ちゃん返り	2	3.3%						
主な内容	⑩	件数		⑪	件数		⑫	件数	
	予防接種	13	(1.0%)	社会資源の活用	9	(0.7%)	アレルギーに関する問題	6	(0.5%)
	副反応	6	46.2%	子育て支援	7	77.8%	食物アレルギー	4	66.7%
	接種時期・方法	2	15.4%				気管支喘息	1	16.7%
	効果	2	15.4%				アレルギー疾患全般	0	0.0%
主な内容									
	⑬	件数							
	虐待・虐待予防	6	(0.5%)						
	親への支援	5	83.3%						
	子供への虐待	1	16.7%						
主な内容									

編集 あいち小児保健医療総合センター
保健センター保健室
〒474-8710 大府市森岡町七丁目 426 番地
TEL 0562-43-0500 内線 4041
発行 令和5年1月